

〔重修本草〕綱目啓蒙水菜二十石蓴 アヲサ。チサノリ。阿州

海中石ニ著テ生ズ、紫菜ト形状同クシテ綠色、乾シテ紫色ニ變ゼズ、ネバリアリ食料トス、諸州共ニアリ、國ニヨリ粘セザル者モアリ、一種海中石上ニ生ジテ、車前葉ノ如ク淡綠色ナルヲ、泉州ニテアヲサト云、攝州ニテニガアヲサト云、肥前ニテガニアヲサト云、賤民ノ食ナリ、今勢州ニモコレヲ賣ル、下品ノ者ナリ、又アヲノリノ濶キ者モ、紀州ニテアヲサト云、又陟釐榑柿モアヲサト云、皆同名アリ、

〔古事記〕上於出雲國之多藝志之小濱造天之御舍多藝志三而水戸神之孫櫛八玉神爲膳夫獻天御饗之時、略鎌海布之柄作燧白、以海蓴之柄作燧杵而鑽出火、

〔古事記傳〕十四海蓴は古毛と訓べし、略中大嘗祭式に、紀伊國所獻云々、都志毛古毛各六籠云々、並令賀多潛女十人、量程探備とある古毛も是なるべし、さて此海蓴と云物、いかなる物にか未考得ず、谷川氏云、海草に古毛と云物あり、小藻の意なるべし、保陀波良に似て、丸き物多くつけば、又燧杵に作れるを思ふ、なほよく尋ぬべし、

〔延喜式〕大膳三十三正月最勝王經齋會供養料、略註僧別日菓菜料、略中青海菜以一帖古毛一合、

白藻

〔撮壤集〕海藻中白藻シラモ

〔和爾雅〕七龍鬚菜シラモ、菘苑詳註云、

〔和漢三才圖會〕九十七龍鬚菜、俗呼曰於期菜、

〔庖厨備用倭名本草〕四水菜、俗名抄ニ龍鬚菜ナシ、多識篇カタノリ、考本草東南海邊ノ石上

ニ生ズ、叢生シテ枝葉ナシナリアヒ柳根ノヒゲノ如シ、長キハ一尺餘、色白シ、醋ニヒタシ、肉ニ和シテ蒸シ食シテ皆ヨシ、一名ハ石髮元升、井向曰此註ヲミレバ、西國俗ニ云シラモ也、多識篇ニカタノリト云フハ、穩當ナラザルニヤ、